

月報	日本キリスト改革派 横浜中央教会	2014年8月10日 8月号
----	---------------------	-------------------

## 会堂建築（増築）に思うこと

C. Y

先日の臨時会員総会にてアンケート結果が公表され、建築会計の献金が近い日に渡ってどれだけされるのか目に見える形でわかってきました。当初 2000 万円の予算で始め見積もりや諸々の要望を建築委員会で話し合った結果予算を超えることが分かり一時停止していた状態から再出発が出来たことは教会にとってこの上ない感謝です。

わたしたちの教会建築は 15 年前位からこの今ある会堂の為祈りと献金と融資によって建てあげられました。6600 万あった融資金も 10 年かけて 1/3 までにした実績も神様に感謝いたします。今回の会堂建築（増築）は前回（この本体会堂）の会堂建築同様お金の無い中で予算の厳しい中で建築委員会が中心となって知恵を絞って建てあげられます。本当に感謝です。

しかし、わたしたちが忘れていけないのは「教会は建物でたつ」のではなく、「私たち一人一人の信仰で建つ」のです。と言っても、この世において自分の信仰を育む場所といえ目に見える建物の教会に来て礼拝をすること。自分の信仰を確認し、教会活動の発展が目に見える形で理解できる重要な器であることも確かです。

もう一つ忘れてはならないことは前回の会堂建築と環境が違うことです。前回の会堂建築は会堂も牧師館もないところに土地が与えられ、この会堂の建築が始まりました。今の環境は牧師館も別棟で与えられ、前の融資金返済もまだ返済実績からすれば少しですが残っている中建築されていきます。

お金がないなかの会堂建築は次世代に建物も借金も残していくものと考えなければなりません。これは建築委員会に圧力をかけているのではなく、教会員一人一人が肝に銘じていた方が良く、ことだと思えます。

主のみいつとみさかえとを こえのかぎりたたえて  
 まだき愛とひくきこころ 御座にそなえひれふす（讚美歌 7 番）

この讚美歌は礼拝でもよく歌われる曲です。メロディーもきれいで、曲の終わりに向けてだんだんと盛り上がって行く構成も厳かで、私の好きな讚美歌の一つですが、いつかの礼拝でこの曲を歌ったときに、主人に「『みいつ』ってどういう意味？」と聞かれ、「うっ…」と答えて窮してしまいました。ちなみに、私はなんとなく音のイメージやそのあとに続く「みさかえとを」という言葉から、「みいつ」は「三位一体」のことを別の言葉で表わしているのかな？と思っていました。

果たして正解は、というと…

### み-いつ【▽御▽巖／▽御稜=威】

→「巖(いつ)」を敬ってという語。天皇や神などの威光（goo 辞書）

なるほど、と思いましたが、主人に聞かれて初めて、自分かきちんと意味を理解せずになんとなーくの気持ちで歌っていたんだなということに気がきました。意味が分かってからはこの曲を歌うとき、以前よりも背筋が伸び、しゃんとした気持ちで歌えているような気がします。

しかし今の讚美歌の歌詞は難解で、現代では使われていない言葉も多いので、やはり他の讚美歌も同様にきちんと意味を把握できて歌っているとは言えないのだろうな、ということに改めて気付かされました。そんな話を牧師としていましたら、音の論壇で讚美歌の難解な言葉について書いてと言われ、振り返って見たところ、2004年2月22日と29日の論壇にありましたので、ぜひ皆さまもご覧になってみてください。難解な讚美歌の歌詞のリストアップがされています。たとえば…

- ・悪魔のひとやをうちくだきて： 人屋、牢獄のこと（一つの矢ではない）
- ・なみする： ないがしろにする
- ・あだびと： 徒人＝心の代わりやすい人、浮気者 などなど…

ところで、東仙台教会では腰艶歌の歌詞を現代語に訳しその現代語訳を読んでから歌う、というスタイルをとっています。これは以前、求道者の方から「歌詞の意味が分からない」と言われて始めたそうですが、教会長の方々にも好評だったため続けているそうです。全曲の現代語訳を読んでから、というのは難しいにしても、一つ二つ、難解な言葉がある場合には歌う前に紹介していただくのもいいな、と思います。また、私たちが翌週の歌う讚美歌は週報で分かるので、事前に調べておくことも必要だろうと思いました。なかなか難しいのですが…。

でも讚美歌の歌詞の意味が分かるとさらに讚美が豊かになるので、ぜひこれを機に、まずは来週の讚美歌をちらっと見てみようと思います。